兵庫県南部における伝統的建造物群保存地区の環境物件及び工作物に関する基礎調査

大阪芸術大学　建築学科　教授　杉本 真一

2016 年度より重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建」と略す）の環境物件に関する調査を、本研究補助費を使って近畿、中国、四国、九州北部と進めてきた。本来ならこれまでの続きとして九州南部の調査を行うところであるが、新型感染症の広がりに伴い遠方への調査が困難となったため、昨年度に続き兵庫県内の調査を行った。

昭和 50 年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになった。国は市町村からの申し出を受けて、特に価値が高いと判断したものを重伝建に選定している。保存の対象は建築物、工作物、環境物件の 3 つに分類されている。

兵庫県では、昭和 60 年 3 月に「都市景観の形成等に関する条例」（平成 5 年に「景観の形成等に関する条例」に改称）を制定し、さらに 10 の制度に策定している。本調査ではその中の「景観形成地区」と「景観形成重要建造物等」から調査の地域・地区を選び、さらに本年度はその中の南部に属するものを調査の対象とした。

＜調査地区＞

「景観形成地区」はさらに「歴史的景観形成地区、住宅街等景観形成地区、まちなか景観形成地区、沿道景観形成地区」の 4 つに分けられている。兵庫県内の重伝建の多くは、先に県の歴史的景観形成地区に指定され、その後、国の重伝建として指定されていることが多い。そのため本調査では「歴史的景観形成地区」（伝統的な建造物または集落が周辺の環境と一体をなしている区域）に指定されている地区を対象とした。

2020 年 4 月時点で、県指定の歴史的景観形成地区が 10 地区、県指定から市指定に移行された地区が 8 地区、合計 18 地区あり、本年度は南部 7 地区の調査を行った。

＜調査項目＞

過年度の重伝建の調査同様、環境物件（伝統的建造物と景観上密接な関係にある樹木、庭園、池、水路、石垣等）と工作物に焦点を当てて調査を進めたが、これらは伝統的建築物という主役があっての脇役であるため、建築物の調査も同時に行った。

重伝建の場合は国への申請段階で各市町村がエリアを確定し、建築物、工作物、環境物件のリストを作成している。しかし兵庫県の景観形成地区ではエリアを確定しているだけで、物件リストは作成されていない。そこで、現地を歩きながら重伝建の規準で適宜対象となりそうな物件の調査を行った。

＜調査地区の概要＞

●たつの市　龍野地区（1990 年指定）

龍野地区は、歴史的景観形成地区に指定された後、国の重伝建として 2019 年に指定された。たつの市のほぼ中央部に位置し、約 400 年前の城下町の町割りをほぼそのまま継承している。建築物としては、261 棟が登録されており、18 世紀中期から昭和初期までの約 250 年間の町家が連続的に現存している点が保存地区の歴史的町並みの特徴である。また、地場産業の醤油業のレンガ造の蔵や煙突（工作物）がランドマークとなっている。工作物としては、屋敷の門や高塀、煙突など 18 件が指定されている。環境物件として指定されているものは無いが、樹木や石垣等重要なものは多く見られた。

●たつの市　御津町室津地区（1994 年指定）

室津はたつの市の南西部にある漁港を中心としたまちである。江戸時代には良港であるため、海の宿駅として栄え、旧豪商の家屋などは僅かながら残り、江戸時代に宿場として繁栄をみせた町の面影がうかがえる。岬の先端にある重要文化財の賀茂神社は建物だけでなく社叢の県指定の天然記念物の蘇鉄群が環境物件としての大きな役割を果たしている。また、多くはないが古い石垣や見越しの松なども見受けられる。

●高砂市　高砂地区（2006 年指定）

高砂地区は、市の南東部の瀬戸内海に面し、江戸初期に姫路藩の拠点港として整備された地区である。江戸時代からの町割りが残り、平入 2 階建てが中心で、厨子二階も多く残されている。環境物件として、町家の奥の庭に立派な樹木が多く残されている。また、港の古い護岸石、小さな石橋なども若干見られる。

●朝来市　和田山町竹田地区（1998 年指定）

戦国時代を代表する山城・竹田城の城下町。旧街道に沿って虫籠窓を備えた伝統的な商家の建物が多く残っている。また歴代竹田城主の菩提寺が 4 カ寺並ぶ通りに沿って、江戸時代につくられ流れた小川と白壁の塀、寺にかかる石橋などがあり、環境物件として注目すべきものが多くある。

●佐用町　平福地区（2011 年指定）

佐用町平福地区は、14 世紀の半ばから因幡街道に面した城下町として都市計画がなされ、後に宿場町となった経緯から、その両方の景観を有する町並が特徴となっている。佐用川に沿った石垣や建物群の景観が特に優れている。また、街道に沿った生活用水路も注目すべきものである。

●太子町　斑鳩地区（2013 年指定）

太子町は、姫路市とたつの市に挟まれた兵庫県南西部（西播磨地域）のまちで、龍野街道、西国街道の二つの街道沿いに宿場町として形成された。斑鳩寺には重文の三重塔をはじめとする建物が並び、境内には景観を形成する樹木が多く残されている。また、幅の広い水路、石橋、水路の護岸石、標石、石灯篭など幅広い環境物件が見られる。

●神戸市　北区道場地区

江戸時代は丹波街道、大坂街道、播州街道の交差する交通の要衝で重要な宿場町であった。多くはないが格子窓や虫籠窓のある民家が点在している。平入りが中心であるが、妻入りの民家も少なくない。環境物件としては道標、水路などが見られる。